

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年8月18日～2014年8月24日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年9月1日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼「中央選挙委員会委員長」の自宅の庭に手榴弾が投げ込まれる(20日)

・20日未明、ソフミのタバグア「中央選挙委員会委員長」の自宅の庭に何者かによって投げ込まれた手榴弾が爆発した。負傷者はいない。

・「中央選挙委員会」は「いかなる挑発にも屈せず、(24日に予定されている)『大統領選挙』を法に則って実施する」との声明を発表した。

▼ベラルーシとカザフスタンに対する独立承認の要請(21日)

・ブガンバ「アブハジア大統領代行・議会議長」が、ルカシェンコ・ベラルーシ大統領およびナザルバエフ・カザフスタン大統領に対し、それぞれ、「アブハジア共和国」の独立承認についてのベラルーシ国会、カザフスタン国会に対する要請を支持するよう求める書簡を送付。書簡では、「アブハジア共和国」は、「ベラルーシ、ロシア連邦およびカザフスタンの統合の動きを注視しており、いずれはアブハジア共和国がユーラシア連合の設立に参加することができるよう願っている」と述べられている。

▼「大統領選挙」(24日)

・24日、候補者4名が争う「大統領選挙」が行なわれ、同日夜、ハジンバ「アブハジア国民統一フォーラム代表」が勝利宣言を行なった。

・24日、グルジア外務省は、アブハジアの「大統領選挙」を非難するよう国際社会に呼びかける声明を発表。

・アシュトン EU 外務・安全保障政策上級代表は、EU はグルジアの領土一体性・主権を支持するとして、アブハジアの「大統領選挙」を認めないとの報道官声明を発表。

・「アブハジア選挙管理委員会」による翌25日未明の暫定結果の発表によれば、得票率はハジンバ氏 50.57%、ジャニア「元国家保安局局長」36%、キシマリア「元国防相」6.4%、ザプシバ「元内相」3.4%。投票率は約70%。

2. 外 政

▼ウスバシヴィリ国会議長がパラグアイおよびアゼルバイジャンを訪問(16日―23日)

・パラグアイで「ウ」国会議長は同国国会のリャノ上院議長、ヴェリスケス下院議長およびロイサガ・パラグアイ外相と会談。

・アルゼンチンで「ウ」国会議長は、同国のブードゥー副大統領・上院議長およびドミンゲス下院議長と会談。

▼マルグヴェラシヴィリ大統領とベルズインシュ・ラトビア大統領との電話会談(18日)

・会談の主なテーマは9月のNATO首脳会議であった。

「マ」大統領は、首脳会議での共同の取り組みを通じ、欧州・大西洋地域の安全保障の強化に繋がる新たなメカニズムがつくりだされることが重要であると述べた。両大統領は、グルジアおよびウクライナで進行中の事態を受け、若い民主主義国家の安定および平和的な発展を保証することが一層重要な課題になっていると述べた。また、「マ」大統領は首脳会議の共同声明に注意を向け、共同声明はグルジアのNATO加盟の見通しをより明確にするものにならねばならないと述べた。

・「ベ」ラトビア大統領はラトビアのビジネス代表团とともに11月にグルジアを訪問する予定。

▼アラサニア国防大臣がアゼルバイジャンを訪問(18日―19日)

・18日、ナヒチェヴァンにてハサノフ・アゼルバイジャン国防相と会談。両国防相は将来の二国間協力の見通しや地域的な安全保障について議論。

・19日には、ナヒチェヴァンにてアゼルバイジャン、グルジア、トルコの3カ国の初めての国防大臣会談が行なわれた。今後も6か月に一度のペースで定期的に3カ国の国防相会談を行なう。地域的なガス・石油パイプラインの保護などに関する共同訓練の実施、および、軍事教育・軍事技術の分野における協力に関するセミナーや会議の開催が「適切であると評価された」。また、3カ国の軍の共同行動能力を向上させるべく、3カ国の技術専門家レベルの会合を開催することで合意した。

▼米イージス誘導ミサイル巡洋艦がバトゥミに入港(18日―20日)

・米海軍第6艦隊のイージス誘導ミサイル巡洋艦 USS Vella Gulf がバトゥミに入港。グルジア沿岸警備隊との共同訓練が行なわれた。米大使館は、同巡洋艦の入港は、「黒海地域の平和と安定を促す共通の目標に向けた取り組みにおいて、グルジアのようなNATO同盟国・パートナー諸国との関係の強化に対する米国の関与を再確認するものである」との声明を発表。

▼マルグヴェラシヴィリ大統領とグリボウスカイト・リトアニア大統領との電話会談(20日)

・両大統領はウェールズで行なわれるNATO首脳会議で、グルジアの前進が評価され、それが首脳会議の主要な文書に適切に反映されるよう希望を述べた。ウクライナ情勢についても議論し、最近の事態について懸念を表明。

▼ガリバシヴィリ首相がアルメニアを訪問(21日―2

2日)

・21日、アブラハミヤン・アルメニア首相と会談。会談後、「ア」アルメニア首相は、会談では両国の友好的な関係が確認され、二国間関係を更に発展させる意思が表明されたと述べた。両国間のサダフロ国境通過点に共同で新しい橋を建設することで合意。「地域における平和と安定の重要性」についても議論。

・アルメニアによる関税同盟への加盟の決定およびグルジア・EUの連合協定への署名について、「ア」アルメニア首相は、両国が異なる経済ブロックに入ることは、二国間貿易に影響を与えず、むしろ、両国は利益を得るだろうと述べた。

・コチャリヤン・アルメニア外務次官はグルジアの記者に対し、「アルメニアが関税同盟に加盟した後も、一部の産品には優遇措置が適用される。そのリストの詳細について議論が進められているところである」と述べた。

・ダリアリ峡谷で起きた地滑りにも言及された。地滑りにより、ロシアからアルメニアに天然ガスを供給するパイプラインが損傷したが、「ガ」首相は、2、3日以内に復旧すると期待していると述べた。

・22日にはアルメニアのサルグシヤン大統領、サハキヤン国会議長とも会談した。「サ」アルメニア国会議長は10月にグルジアを訪問する予定。

▼ウクライナ情勢に関するグルジア外務省声明(22日)

・グルジア外務省は、ウクライナ東部における最近の戦闘の激化により一般の市民のあいだにも重大な犠牲がもたらされているとして、憂慮を表明する声明を発表。

・爆弾の爆発によりドネツク市内のグルジア領事館の建物が損傷したが、領事館職員は既にドネツク市から避難していたため犠牲者はいない。グルジア国民に対し、反テロ作戦が行なわれているウクライナの諸地方への訪問をできる限り控えるよう呼びかけている。

▼ガリバシヴィリ首相とバイデン米副大統領との電話会談(22日)

・米側の発表によれば、二国間関係、グルジア・NATOのパートナーシップ、投資誘致・経済成長に向けたグルジアの努力について議論。バイデン米副大統領はグルジアのNATO加盟の方針に対する支持を強調した。

▼セルゲエenko労働・保健・社会保障大臣とウクライナの保健大臣との電話会談(23日)

・ウクライナ東部の状況を受け、人道支援として、グルジアの医師団のウクライナへの派遣、医薬品の供与、負傷者のグルジアでの治療について合意。

3. 内 政

▼国防省とグルジア正教会が協力に関する覚書に署名(18日)

・アラサニア国防相とイリア 2 世グルジア正教会総主教

が、国防省とグルジア正教会との間の覚書に署名。「ア」国防相によれば、覚書は、聖職者が負傷兵の精神的ケアを支援するなど、両者の今後の協力に向けた法的基盤となるものである。

▼バクラゼ議員の英HSBC銀行の口座に対する捜査(20日)

・19日、何者かがフェイスブック上にバクラゼ議員の口座に関する同氏宛てのHSBCの書簡を公開。検察は、バクラゼ議員の資産申告に同口座の276,000ポンドが含まれていないとして、捜査を開始したと発表。

・20日、バクラゼ議員は、口座が自分のものであることを認め、口座の残高は2002年に義父の住居をスイス大使館に売却した代金であり、不法に入手したものではないとの声明を発表。

4. 経 済

▼グルジア＝ブルガリア間のフェリーの運航が再開される(18日)

・2010年以来止まっていたポティとブルガリアのブルガスを結ぶフェリーの運航が再開された。グルジアから欧州への輸送の最短ルート。フェリー会社社長は、10月末にポティとロシアのソチあるいはノヴォロシスク間の運航を開始することについて協議中であると述べた。

▼2014年第2四半期の農業統計(19日)

・国家統計局が速報値を発表。6月末時点の国内の家畜の数は、牛138万9千頭(前年同期比6.6%増)、羊・山羊115万6千頭(10.5%増)、豚21万頭(34.6%減)、家禽1213万3千羽(13.6%増)。第2四半期の牛乳の生産量は2億2170万リットル(前年同期比6%増)、食肉の生産量は9100トン(17.3%減)、卵の生産量1億4460万個(9.3%増)。

3. その他

▼ダリアリ峡谷で再び地滑りが発生(20日)

・ロシアとの国境通過点付近のダリアリ峡谷で20日夜に起きた地滑りにより、グルジアとロシアを結ぶ道路が通行不能になり、ロシアからグルジア経由でアルメニアに天然ガスを供給するパイプラインが損傷した。同じ場所では5月17日にも大規模な地滑りが起き、5人の犠牲者が出た。

・22日、行方不明になっていた2人のうちの1人、水力発電所の建設に携わっていたトルコ人作業員の遺体が発見された。

・シャヴリアシヴィリ地方発展・インフラ大臣は道路の復旧には少なくとも2週間はかかる」と述べた。

・23日に天然ガスのパイプラインが復旧。

▼マグニチュード3.3の地震が発生(21日)

・11時56分、ゼモ・イメレティを震源とするM3.3の地震が発生。被害は確認されていない。